

NHKの松平アナウンサーと言え、数多くの看板番組を担当した名アナウンサーとしてご記憶の方も多いのではないかと。

松平定知氏は1969年、NHK入局。退職するまで一貫してアナウンサーの道を歩み「19時ニュース」のキャスターをはじめ、大型番組や「その時歴史が動いた」など数々の番組を担当、「昭和史報道」、「紅白歌合戦」などの特別番組にも出演した。

ナレーションの名手としても評価が高く、NHKスペシャル「世紀を超えて」や「新シルクロード」などのナレーションを担当した。実は私とはNHKの同期生で、現役時代は記者とアナウンサーという職種の違いもあり、一緒に仕事する機会はほとんどなかったが、今日まで何かと付き合いが続いている。

被災地の支援活動に協力を依頼したところ、「朗読」の講師として参加することを快く承諾してくれた。せっかくの機会なので子どもたちの授業のほかに一般向けにも朗読をお願いすることにした。

2014年9月24、25日、住吉

朗読の名手 1/3

つじ野

⑤

小と湊中で朗読の出前授業を行い、併せて仮設住宅の大橋団地と駅前北通りのナリサワ・カルチャーギャラリーで朗読と音楽の公演を開催した。参加者は計330人になった。

松平氏は会場ごとに作品を変え、子ども向けには宮沢賢治の「注文の多い料理店」と芥川龍之介の「杜子春」。一般向けはライフワークにしたいと言っている藤沢周平作品を取り上げ「橋ものがたり・約束」と「蟬しぐれ」を朗読した。絶妙な「間」を取りながらぬくもりのある声で読み進められる「名手の技」に場内は魅了され感動に包まれていた。「本モノに触れることができた」「言葉の力を実感した」と来場者から称賛の声が相次いだ。

松平氏は07年に年間放送人グラプリ・特別賞「放送人の会」を受けるなど多くの賞を受賞している。充実した内容の支援活動が実現できたのは松平氏のようなその道の第一人者に支えられたことも大きかったと思う。

(佐藤悠 元石巻支援三七会代表 相模原市南区)

石巻支援三七会の活動の締めくくりとして2016年3月6日、東日本大震災5周年チャリティイベント「あの日をつなぐ」を開催した。

震災5周年の節目に「あの日」の記憶を未来に語り継ぐとともに、南海トラフ大地震などの可能性が指摘される中で東日本大震災を改めて見つめ直してほしいと考え、あえて東京で行った。文京区との共催が成立し、会場は都心部の『文京シビック大ホール』が確保できた。

イベントは、1部が3Dドキュメンタリー映画「大津波3・11 未来への記憶」の上映。ミニコンサートは2部を挟んで、3部は池上彰氏の講演「これまで、そして、これから」の3部構成。3時間余りの長丁場にもかかわらず、会場には1200人の観客が詰め掛け満員となった。

1部の映画はNHKメディアテクノロジーが3年にわたって被災地を記録した「世界唯一の震災3D映像」をベースに、大津波の体験者の証言をつづったドキュメンタリー作品。被災地をリアルに描き出す映像と未曾有の災害に遭遇

あの日をつなぐ 1/10

つじ野

⑥

した5人の物語を改めて心に刻みつけるように見入る観客の姿が印象的だった。

また池上氏は「震災復興は新たな地域社会の構築でもある。子孫に何を残したか、これから何を残せるか、私たちの課題であり、未来への責任ではないか」と述べた。

一方、文京シビックの1階ギャラリーでは、写真展「東北の学校」を3月6日から9日まで開催した。展示したのはニューヨーク在住のカメラマン・檜佐文野さんの作品28点。檜佐さんの母親が石巻出身ということもあり、石巻の小学校を中心に消えてしまった子どもたちの生活に焦点を当て撮った。一連の作品はニューヨーク芸術財団写真部門のフェローシップ賞などを受賞。4日間の期間中、写真展としては異例の1200人が訪れた。

5周年の催しは被災地に元気を贈るとともに「来るべき大地震にどう備えるべきか」を考えるきっかけになったのではないかとと思う。

(佐藤悠 元石巻支援三七会代表 相模原市南区)